

書の楽しみとパフォーマンス

書道ブームだそうです。四国中央市の紙まつりで行われる全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会が年々盛り上がり、「書道ガールズ」という映画がヒットしたことが火付け役となったようです。香川でも昨年夏には、うどん県書道パフォーマンス大会2012が開催されました。1月の高松市成人式のオープニングでは、その大会で優勝した高松商業高校書道部のお祝いの書道パフォーマンスが大変好評を博しました。

書道は私の趣味でもあります。もともと悪筆の私が、自分の名前くらいは毛筆できれいに書けるようになりたい、という動機で通信講座を受け始めたのが約8年前。月ごとに課題を清書して送り、添削して返してもらうという自己流の稽古を続けてきました。平成18年11月に東京から帰ってきた後は選挙などもあり、しばらく書道から遠ざからざるを得ませんでした。市長に就任後、光栄にも小森秀雲先生が月2回程指導してくださることになり、稽古を再開し今日に至っています。作品も毎年条幅の掛け軸などを市職員文化展に出展するとともに、硯友展でも2度、二曲屏風を美術館に飾らせていただきました。

字を書くことにコンプレックスを持っていた私ですが、書道はすぐに夢中になりました。面白いのです。最近では公務が忙しく、筆をとり紙に向かう時間がなかなか取れないのが悩みです。でも書道をしている時は、もやもやした気分や余分な雑念が頭から振り払われます。満足のいく清書ができた時などは、清涼感と充実感が心の中にあふれます。カタルシス（浄化の快感）を感じるといっても過言ではなく、気分転換にも最適です。

「書はダンスに似ている」ということを誰かが書いていました。やり直しのきかない即興性が同じだということです。書道パフォーマンスは、音楽に合わせて体を動かしながら、大きな紙に書（画）をしたためていきます。いわば、即興性の高い書とダンスをそのまま組み合わせた斬新で発展性の高い芸術といえるものです。私自身、これからも書を楽しみながら、書道パフォーマンスの今後について、大いに注目していきたいと思います。